

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況（非連結）

平成 16 年 1 月 19 日

会 社 名 株式会社 コメ兵

(コード番号: 2780 登録銘柄)

(URL <http://www.komehyo.co.jp>)

代 表 者 役 職 名 代表取締役社長

氏 名 石原 司郎

問い合わせ先 責任者役職名 取締役経営企画室室長

氏 名 鳥田 一利

(Tel : (052) 249-5366)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近会計年度における : 無  
認識の方法との相違の有無

2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期業績の概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日）

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 3 四半期	17,316	(-)	1,483	(-)	1,369	(-)
(参考)15 年 3 月期	20,908		1,181		1,054	

- (注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。  
2. 前年同四半期については四半期決算を実施しておりませんので記載を省略しております。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当社は「スーパーディスカунトリサイクルデパート（注1）」型店舗の大都市展開”を中長期的な経営戦略として位置付けており、平成 16 年春に本格的な東京進出第 1 号店となる「コメ兵有楽町店」（東京都千代田区）の出店を予定しております。このため、当第 3 四半期はこの中長期的な経営戦略を確実に推進していくために、東京出店に先行して中古品仕入体制の強化及び名古屋市中区大須地区の営業基盤強化に努めました。

店舗展開については、平成 15 年 7 月に「買取センター大須」（名古屋市中区）の移転・増床オープン、同 9 月に「コメ兵本館 1 階」（宝石・貴金属販売；名古屋市中区）の改修・増床オープン、同 10 月に「買取センター有楽町（注2）」（東京都千代田区）のオープン、同 11 月に「コメ兵アメカジ館」（アメリカンカジュアル衣料販売；名古屋市中区）のオープン及び「コメ兵本館 4 階」（ブランド衣料販売；名古屋市中区）の改修・増床オープンを行い、買取力及び販売力の強化に努めました。

特に、当第 3 四半期は上記店舗増床及びTV・新聞等によるパブリシティ効果（株式公開もあり、当社特有のビジネスモデルが紹介されるケースが目立った。）により、来店客数が増加したことから、買取及び販売の促進を図ることが出来ました。また、買取力の強化による個人買取仕入（新品仕入に比較し売上高総利益率が高い。）の増加及び商品売価の定期的な見直しによる利益獲得機会損失の防止により、売上高総利益率を改善することが出来ました。

以上の結果、当第 3 四半期の業績については、売上高は 17,316 百万円、営業利益は 1,483 百万円、経常利益は 1,369 百万円となりました。

- (注) 1. 当社では、核店舗である「コメ兵本館・西館・アメカジ館」を中古品・新品をリーズナブルに提供するデパートとして「スーパーディスカунトリサイクルデパート」と称しております。  
2. 「コメ兵有楽町店」のうち買取センターのみ先行オープンし、「買取センター有楽町」としてしております。

以 上

〔添付資料〕仕入及び販売の状況

1. 仕入実績

(1) 商品別仕入実績

区 分	第26期第3 四半期 〔自 平成15年 4月 1日〕 〔至 平成15年12月31日〕		(参考) 第25期通期 〔自 平成14年 4月 1日〕 〔至 平成15年 3月31日〕	
	金額 (千円)	構成比(%)	金額 (千円)	構成比(%)
宝石・貴金属	3,551,829	24.1	3,763,492	22.6
時計	4,993,268	33.9	5,862,220	35.2
バッグ・衣類	4,778,289	32.5	5,206,238	31.3
家電・楽器	1,399,158	9.5	1,824,153	10.9
合計	14,722,546	100.0	16,656,105	100.0

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入経路別仕入実績

区 分	第26期第3 四半期 〔自 平成15年 4月 1日〕 〔至 平成15年12月31日〕		(参考) 第25期通期 〔自 平成14年 4月 1日〕 〔至 平成15年 3月31日〕		
	金額 (千円)	構成比(%)	金額 (千円)	構成比(%)	
中古品	買取センター	5,643,389	38.3	6,017,849	36.1
	買取センター大須	3,138,125	21.3	3,500,713	21.0
	東西抛店	2,505,264	17.0	2,517,135	15.1
	宅配仕入	241,090	1.6	217,420	1.3
	中古品取扱事業者等	1,911,314	13.0	2,955,784	17.7
	小計	7,795,794	53.0	9,191,054	55.2
新品	6,926,752	47.0	7,465,050	44.8	
合計	14,722,546	100.0	16,656,105	100.0	

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 東西抛店とは、買取センター大須以外の関東・関西等地域における個人買取仕入拠点の総称であります。買取センター大須の仕入実績は、全買取センターに占める割合が高いため、その重要性を勘案し、区分表示しております。

## 2. 販売実績

区 分		第26期第3四半期		(参考) 第25期通期		
		〔自 平成15年 4月 1日〕 〔至 平成15年12月31日〕		〔自 平成14年 4月 1日〕 〔至 平成15年 3月31日〕		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
商品 売上高	宝石・貴金属	中古品	3,455,826	20.0	4,008,656	19.2
		新品	844,991	4.9	1,013,190	4.8
		計	4,300,817	24.8	5,021,846	24.0
	時計	中古品	2,114,048	12.2	2,770,650	13.3
		新品	3,233,792	18.7	3,670,280	17.6
		計	5,347,840	30.9	6,440,930	30.8
	バッグ・衣類	中古品	3,467,100	20.0	4,251,954	20.3
		新品	2,410,138	13.9	2,790,740	13.3
		計	5,877,238	33.9	7,042,694	33.7
	家電・楽器	中古品	1,109,531	6.4	1,522,974	7.3
		新品	617,141	3.6	807,621	3.9
		計	1,726,673	10.0	2,330,595	11.1
	小計	中古品	10,146,506	58.6	12,554,235	60.0
		新品	7,106,063	41.0	8,281,832	39.6
			99.6	20,836,068	99.7	
不動産賃貸収入		64,390	0.4	72,205	0.3	
合計		17,316,959	100.0	20,908,273	100.0	

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. 地域別販売実績については、全社商品売上高のうち名古屋市中区大須地区の商品売上高の占める割合が90%を超えているため、記載を省略しております。

[参考]

平成 16 年 3 月期通期（平成 15 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日）の業績予想

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
今 回 発 表 予 想(A)	23,100	1,432	750
前 回 発 表 予 想(B)	22,208	1,194	643
増 減 額(A－B)	892	238	107
増 減 率(%)	4.0	19.9	16.6
(参考) 前期実績（平成 15 年 3 月期）	20,908	1,054	525

## 2. 修正理由

売上高は、名古屋市中区大須地区の店舗増床とTV・新聞等によるパブリシティ効果（当期は株式公開もあり、当社特有のビジネスモデルが紹介されるケースが目立った。）により来店客数が増加したこと等の要因から好調に推移しているため、前回発表予想との比較で 892 百万円増となる 23,100 百万円に修正いたしました。

経常利益及び当期純利益は、買取センターの増床とパブリシティ効果による個人買取仕入（新品仕入に比較し売上高総利益率が高い。）の増加及び商品売価の定期的な見直しによる利益獲得機会損失の防止により売上高総利益率が改善されたこと等の要因から好調に推移しており、経常利益は前回発表予想との比較で 238 百万円増となる 1,432 百万円に、当期純利益は前回発表予想との比較で 107 百万円増となる 750 百万円に、それぞれ修正いたしました。

なお、経常利益について、今回発表予想数値は当期第 3 四半期の経常利益 1,369 百万円（注）に比較し、増加額が 63 百万円となっておりますが、これは主に当期第 4 四半期（平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日）において、平成 16 年 3 月オープンを予定している「コメ兵有楽町店」の出店に伴う販売費及び一般管理費の増加及び冬物衣料を中心とした期末に向けての在庫水準の適正化に伴う売上高総利益率の低下等を見込むことによるものであります。

また、当期純利益について、当期より減損会計を早期適用することによる遊休不動産の減損処理約 60 百万円（特別損失に計上）を見込んでおります。